

はじめに

新曲視唱課題に、実施者自らピアノ伴奏をしながら歌う課題です。

単旋律のみを正確に歌唱することは非常に高度な技術が必要ですが、歌う作業に加えて旋律と異なる動きをもつ伴奏を演奏することは、さらに難易度の高いことであることは言うまでもありません。

ピアノの伴奏パートは一段のみで、片手で演奏できるようになっていますが、場合によっては両手を用いても差し支えありません。

旋律に伴奏が加わるということは、音楽がハーモニーを帯びることに他なりません。音楽の縦の響き、横の響きの移り変わりや律動を体感し、より深い音楽の学びを得られることが期待されます。

課題の実施について

課題実施の方法は、次のような流れで行います。

1. 学習者は楽譜（旋律譜）を、ピアノなどで音を確認せずに予見を行う。
2. 無伴奏で歌唱する。
3. 自ら伴奏とともに歌唱する。

予見の時間は、曲の長さや難易度によって、数10秒から2、3分程度を目安に設定します。

歌唱では音程やフレーズ感、ディナーミクなどの演奏指示に細心の注意を払う必要があります。

2.の、「伴奏を用いない歌唱」はせずに、3.の弾き歌いに移っても差し支えありません。

また、学習の方法や、学習者の習熟度によって、1.~3.の課題の実施開始時に、適宜、主和音や主音を聴き、音や調性感を確認することも必要に応じて行われるべきでしょう。

代表的な課題集

Jean Michel Damase : Quinze leçons de solfège : avec accompagnement et piano(H. Lemoine)
など

親しみやすい作風で知られるフランスの作曲家ダマーズの、ピアノを伴うソルフェージュ課題が多く出版されています。初学者向けのものから、全ての音部記号を含む難易度の高いものまで多数あります。

いずれも一つ一つの課題が音楽作品として充実しており、ソルフェージュの総合的な訓練に最適なものとなっています。